

(様式1)

令和2年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 21	提案機関名 横浜農業協同組合
要望問題名 カキ‘太秋’成木における雌花の安定着生技術の確立	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 全量直売地帯の横浜市では、大玉で果汁が多く、シャリ感がある‘太秋’が消費者から好評であり、従来品種に替わる新品種として増殖、高接ぎ更新が行われてきました。 苗木新植から10年前後までの幼木期には雌花の確保は容易で、比較的安定した果実生産が行われているが、概ね10年を過ぎた成木期にはいって、収量・果実品質ともに最盛期に入るところから、雄花の着生が多くなり、従来から言われている優良結果母枝でも、雌花の着生が非常に少なくなり、場合によっては収量減につながっています。 以前から、ふさわしい結果母枝長、夏肥施用、平棚仕立て、JV仕立てなど成果は出されているが、現地で大宗を占めている開心自然形における、雌花の安定着生技術について、植栽密度、剪定方法、枝の更新方法、着果量、果実肥大など面から検討いただき、栽培指針の作成をお願いします。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター    ②畜産技術センター    ③水産技術センター    ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産技術部果樹花き研究課
対応区分	①実施    ②実施中    ③継続検討 <input checked="" type="checkbox"/> ④実施済    ⑤調査指導対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥現地対応    ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) I-2(3)消費者ニーズに合致した果樹有望品種の安定生産技術の確立 エ 直売向けカキ有望品種の安定生産技術の確立 ㍻ ‘太秋’の安定生産技術の確立		
対応の内容等	雌花の安定着生技術については、平成29年度研究成果として出された「夏肥施用」により、開心自然形で10年を超える樹体においても、雌花着生には一定の効果が認められていることから、この技術のさらなる普及により対応が可能であると考えます。また、植栽密度、剪定方法、枝の更新方法、着果量、果実肥大については、他県の成果情報や農業技術体系カキ編などの‘太秋’に関する情報を活用することで対応していただければと考えております。		
解決予定年限	①1年以内    ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内		
備考			